

木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり協議会 第1回協議会資料

これまでの経緯と今後の展開

- かわまちづくりについて
- かわまちづくり支援制度について
- これまでの経緯と今後の展開
- かわまち整備に関する先進事例等

「かわまちづくり」とは、**河川空間**と**まち空間**が融合した賑わいある良好な空間形成を目指す取り組み

出典：「『かわまちづくり』支援制度実施要綱」の目的より

地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「**資源**」や地域の創意に富んだ「**知恵**」を活かし、市町村、民間事業者及び地域住民と河川管理者の**連携**の下、実現性の高い水辺の整備・利用に係る取り組みを進めていく

新たな価値の発見・創出

地域の「**顔**」・「**誇り**」となる空間形成

「かわ+まち=地域」の**活性化**



出典：「かわまちづくり計画策定の手引き（第1版）」に加筆

かわまちづくり支援制度について

かわまちづくり支援制度とは国土交通省が定める制度で「かわまちづくり計画」を作成登録することで、地域の「かわまちづくり」の取組みを河川管理者がソフト・ハードの両面から必要な支援を実施

ハード施策による支援

- ・治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理用通路や親水護岸等の施設整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援。
(市町村、民間事業者が河川空間の利用施設を整備)



河川管理用通路の利用
(最上川／長井市)

親水護岸の利用
(新町川／徳島市)

ソフト施策による支援

- ・都市・地域再生等利用区域の指定等による民間事業者等のオープンカフェ等への河川空間の多様な利活用の促進
- ・優良事例に関する情報提供や必要な調査等により、計画の実現を支援

都市・地域再生等利用区域の指定の適用事例



遊歩道の民間活用
(道頓堀川／大阪市)



オープンカフェの設置
(京橋川／広島市)

先進的な取組の情報提供



民間事業者の参加
(信濃川／新潟市)



賑わい拠点の整備
(木曽川／美濃加茂市)

これまでの経緯と今後の展開

○かわまちづくり支援制度の活用についての自治体意向

- ・かわまちづくり支援制度は平成21年に創設され、登録数は、令和6年度に加わった22箇所を含め、全国で合計286箇所となっています。木曽川上流河川事務所の管理区間においては、木曽川沿川で3箇所（一宮市、美濃加茂市、可児市）で実施されてきましたが、現在、新たに本制度の活用について検討を進めている市町が複数あります。
- ・このような中、従前より市町の垣根を外し、サイクリングコースによる線としてのつながりを形成するとともに、地域全体としての更なる活性化に向けた取り組みを進めてきた木曽川沿川においては、各市町単独での支援制度だけでなく、地域一体で制度を活用し、活性化に向けた共通のコンセプトの中で、各整備拠点を位置づけることで、点から線、そして面として、賑わいの創出を展開していけるのではないかと考えています。
- ・また、木曽川沿川の観光資源は、極めて高いポテンシャルを持つことから、地域が一体となった計画とすることが有効であると考えています。そのため、木曽川沿川を包括した形での、かわまちづくり計画の取りまとめについて提案してまいりました。



- ・7市町で構成されていた「木曽川中流域かわまちづくり協議会」と、12市町で構成する「木曽川上流自転車道整備活用推進会議」を統合し、そのうち、連携してかわまちづくりを推進していきたいと考えていただける市町と、河川管理者（木曽川上流河川事務所）が協働し、河川空間とまち空間が融合した空間形成を目指すための取り組みを「かわまちづくり計画」としてとりまとめることを目指します。

これまでの経緯と今後の展開

- 7市町で開催してきた「木曽川中流域かわまちづくり協議会」と、12市町で開催してきた「木曽川上流域自転車道整備活用推進会議」を統合し、かわまちづくり登録や広域ネットワークの形成を目指します。

木曽川を基軸とした地域の更なる活性化を目的とする組織

			木曽川上流域自転車道整備活用推進会議	木曽川中流域かわまちづくり協議会	(参考) 木曽川中流域観光振興協議会
目的			木曽川上流域において、自転車道及び歩道の広域ネットワークの形成を目指すとともに、自転車道等の整備、運営、管理及び活用の更なる充実を図るため、関係市町、県及び国が連携調整する。	木曽川中流域の岐阜県・愛知県の関係市町及び木曽川を管理する木曽川上流河川事務所が連携し、既存の資源を最大限に活用した流域の魅力の向上、木曽川を基軸としたヒト・マチ・オモイのネットワーク化を図り、安全・安心で賑わいのある豊かな川のある暮らしを実現する。	木曽川中流域の歴史や自然、文化、生活を観光資源として活用し、広域的な連携のもと地域外からの観光誘客及び観光消費額拡大を目指す。
構成（市町）	岐阜県内	美濃加茂市	副市長	市長	市長
		坂祝町	副町長	町長	市長
		可児市	副市長	市長	市長
		各務原市	副市長	市長	市長
		笠松町	副町長		
		岐南町	副町長		
		羽島市	副市長		
	愛知県内	犬山市	副市長	市長	市長
		扶桑町	副町長	町長	
		江南市	副市長	市長	
		一宮市	副市長		
		稲沢市	副市長		

これまでの経緯と今後の展開

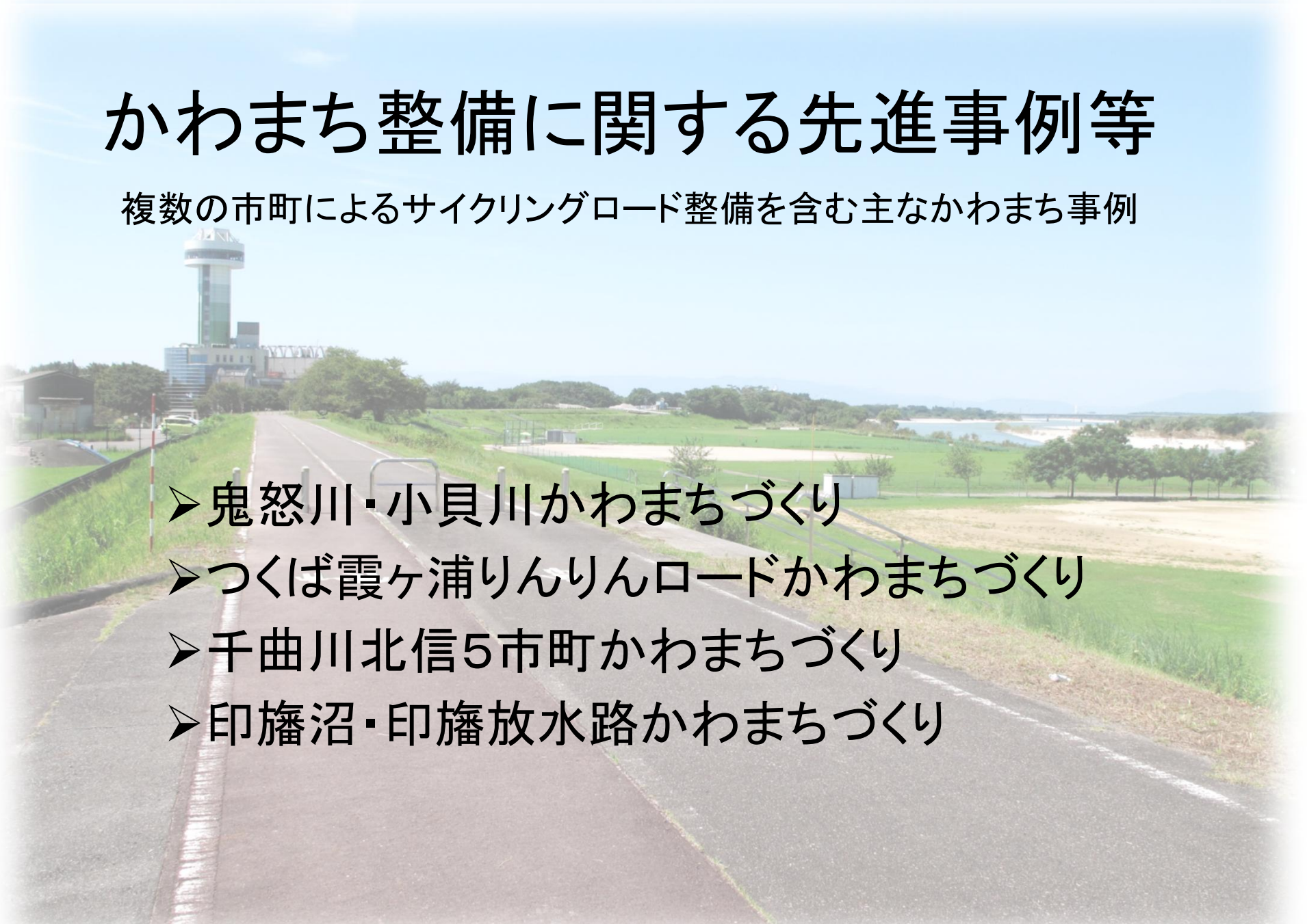
○協働して推進していく12市町

羽島市、美濃加茂市、各務原市、可児市、岐南町、笠松町、坂祝町、犬山市、江南市、一宮市、稲沢市、扶桑町



かわまち整備に関する先進事例等

複数の市町によるサイクリングロード整備を含む主なかわまち事例

- 
- 鬼怒川・小貝川かわまちづくり
 - つくば霞ヶ浦りんりんロードかわまちづくり
 - 千曲川北信5市町かわまちづくり
 - 印旛沼・印旛放水路かわまちづくり

1. 鬼怒川・小貝川かわまちづくり

令和元年登録、令和3年一部変更登録

利根川水系鬼怒川・小貝川（茨城県常総市、下妻市、守谷市、つくばみらい市、筑西市、結城市、八千代町）



かわまちへの思い（行政・市民団体等）

- 鬼怒川・小貝川沿川7市町の連携により、堤防沿いに整備されたサイクリングロードを活用し、堤防側帯等に“まちなかに誘う”リバースポット（案内サインや休憩施設）を整備し、まちなかのタウンスポット（道の駅など）で楽しめる自転車ネットワークを構築していく

今後の展望

- 茨城県が進めている自転車活用推進計画（ナショナルサイクルルート指定のつくば霞ヶ浦りんりんロード等）と連携し、7市町とつなげることで、長距離イベント等を実施していきたい。



2. つくば霞ヶ浦りんりんロードかわまちづくり

令和3年登録

利根川水系常陸利根川（茨城県土浦市、石岡市、鹿嶋市、潮来市、稲敷市、かすみがうら市、神栖市、行方市、鉾田市、小美玉市、美浦村、阿見町）



かわまちへの思い（行政・市民団体等）

- 霞ヶ浦の堤防沿いに整備されたサイクリングロードは旧筑波鉄道の廃線敷を加えた「つくば霞ヶ浦りんりんロード」として、日本を代表し、世界に誇りうる「ナショナルサイクルルート」として、多くのサイクリストに知られています。
- 全国から集まるサイクリストには、市町村をまたぎ広範囲におよぶサイクリングロードを活用しながら、霞ヶ浦周辺の豊かな自然や風景、歴史的・文化的資産、地元ならではの食を楽しんでもらいたいです。

今後の展望

- 霞ヶ浦の堤防沿いはサイクリストのための休憩場所が少ないので、かわまちづくり計画を活用し、休憩施設の整備を進めるほか、まち中に誘うため、案内サイン等の整備を通じ、霞ヶ浦周辺の賑わい創出を行っていきたいです。

かわまちづくりHP(全国かわまちづくりMAP)より抜粋

3. 千曲川北信5市町かわまちづくり

令和元年登録

信濃川水系千曲川（長野県長野市、須坂市、中野市、飯山市、小布施町）

整備後イメージ 小布施町：小布施橋下流水辺整備箇所



カヌーにて千曲川の川下り状況（水辺アクティビティ）飯山市

- 千曲川は昔、人や物資を運ぶ舟運が盛んに行われた歴史があり、川沿いには港跡や遺跡などが存在し、川下りやサイクリングを通して地域の歴史・文化に触れることで、さらなる千曲川の魅力を再発見できます。
- カヌーだけでなく、自転車や鉄道、周遊バスも活用することで、信州各地の観光名所をめぐることも、もう一つの魅力です。

かわまちへの思い（自治体職員）

- 千曲川の沿川の5市町が連携し、千曲川という共通した地域資源（宝）を生かした広域観光の推進により地域の賑わいが生まれ、さらに、地域の歴史・文化に触れることで、未来を背負う子ども達の人材育成に繋げて行きたい。

今後の展望

- 千曲川では、カヌーやサイクリング、ウォーキングなどを楽しむことができるが、各地で行われているイベントの広域な連携やアウトドアメーカーなどの民間事業者との連携強化により広域な観光振興に繋げて行きたい。

かわまちづくりHP(全国かわまちづくりMAP)より抜粋



千曲川・高社山 SEA TO SUMMIT（令和4年10月16日）飯山市



地域の親子で かわ下りツアー（令和5年8月27日）長野市～須坂市

4. 印旛沼・印旛放水路かわまちづくり

令和5年登録

利根川水系印旛沼・印旛放水路（千葉県千葉市、佐倉市、八千代市）

千葉市：花島公園



千葉市：現場写真



佐倉市：佐倉ふるさと広場



佐倉市：現場写真



八千代市：八千代広域公園



八千代市：現場写真



かわまちへの思い（自治体職員）

- 東京湾から印旛沼までを、かわまち計画が目指す地域の賑わい創出の実現に向け、3市が三位一体となって各種事業を展開してまいります！

今後の展望

- 水辺を活用した各種イベントや河川のオープン化制度等を活用した民間活力の導入等により、印旛沼・印旛放水路の水辺の魅力を向上させ、賑わいを創出する

- 沿川全体で水辺へアクセスできる空間が少なかった印旛沼・印旛放水路沿川において、にぎわいを呼び込める空間となる水辺拠点創出する。
- 花見川カヤック体験、佐倉チューリップフェスタ、八千代新川千本桜まつり等